

# SS-Lecture 第1回講座

平成26年4月26日(土)、広島大学生物生産学部から、西堀正英先生をお招きして、SS-Lecture 第1回講座を開催しました。

「生命・食・環境のサイエンスー動物の突然変異、それは遺伝子の失敗作かー」という演題で、前半が2年生、後半が1年生を対象としてご講演をいただきました。

内容については、最初に、「サイエンスの第一歩は『好きこそものの上手なれ』である」という、科学を志す者にとってもっとも基本的なことをもとに、「科学の目」をもつことや、そこから新たな発想をしていくことの大切さについて、パフォーマンスを交えながらお話いただきました。その後、参加者全員にニワトリの絵を描かせるところから始まり、観察することで正確な描写ができるようになること、さらには「四本脚のニワトリ」という普通では考えられない個体も、突然変異によって生じ得る個体であることを、実例を交えて紹介してくださいました。そしてそこから発展して、多くの場合は突然変異の個体は、自然界では生活していけないために、目にすることがほとんどないこと。しかし、ヒトの顔や姿が皆違うように、生活の可否に関係ない変異は、日常的に生じていることについて、わかりやすく解説いただきました。最後に、DNAの簡単な抽出を行って、講座が終了しました。

